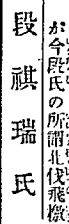


▲**段張兩軍益々接近**  
だんちやうりやうぐんますくせつきん

市田井金と定額を多一ナ  
 具 所 理 日



人是不利なる位置にあり、朝鮮に於て消費せる品物が、全部までは

は糊口に差附なき迄に至るやも知  
たる者大自覺なからざるべからずと  
一言一句熱誠を籠められ候。

帛一千五百六十二圓諸衣服及  
品九千百八十三圓合計七萬四

救済策に就いて語られしことは注すべきことに候へ共、此處に於ては、前述する餘裕なきを遺憾とすは、次第に候。只一つ書落すべからざるは、朝鮮人の商工業にする、李王の御意見にて候。

先づ商業に就いて云はんには、朝鮮人は決して内地人と競争すべき位置に決して内地人に販賣せざるべしとあらむ、朝鮮人に於いて販賣せる品物は、概ね日本産にして日本商人は直接原産地より輸入すれども朝鮮人は未だ期するに足る資力及知識も、内地の工業に競争するに足るべき資力なければ、朝鮮人に於いて工業を経営すべき技能なく、よしや技能ありて市租の工業を起すとすも、内地の工業に競争するに足るべき資力なければ、朝鮮人に於いて工業の外に他進あると思はれず、只内地の大資本家の来るを俟たのみで反復致さる所、憂世の情切にしていたく聴者に感動を興へられ候。

然に女作せば、出内得て賤民を施せば、農業者の或は糊口に差閑なき迄に至るやも知れず、然れども、全く商工業を有せぬ朝鮮人は、決して富むことなるべし、茲に一途あり、而して只一途に限る、其は内地の大資本家が、多し朝鮮へ來りて大工業を起すことなりとすれば直接は工業を起さば朝鮮人に生活の途を與へ、間接には朝鮮人の商業に一新機運を與ふべし、此の外に他進あると思はれず、只内地の大資本家の来るを俟たのみで反復致さる所、憂世の情切にしていたく聴者に感動を興へられ候。

先づ之にて筆を擱き申候。  
本支筆ながら此の機會に於いて、本社全支店員及び其の他の官民有志諸臣に、厚く感謝の意を表し申候。何れの温厚篤實有力なる紳士にして誠心小生を歡迎せらるるは、本社を熱愛せらるる所以と、感佩の至りに候。朝陽雨あり、河川の増水二三尺なり。勿々不一一時急奔して

人事消息  
▲志島長三郎氏(金山郵便局長) 六日葛尾集  
▲相模太田兵衛氏(同局局長) 同上  
▲八木成茂氏(平塚郵便局長) 同上  
▲新嘉坡新氏(元山郵政局長) 同上  
▲前駐在神戶氏(元山郵政局長) 同上  
▲駐在神戶氏(東海郵政社技師) 六日朝京  
▲駐在神戶氏(東海郵政社技師) 六日朝京  
▲奉天氏(北道長官) 四回小門自宅へ  
▲取消 朝鮮領事二階面(朝鮮組合組の起したる暴行として)地方官を専断的に排斥する事を見越して)地方官を専断的に排斥する事を見越して)地方官を専断的に排斥する事を見越して)







▼内地往來の苦痛は濃霧は何うした者が

を爲し居れる書類を發見したることに  
其事實は皆て和田博士が公表した  
に包まれたる船橋上にて起て程戒  
に包まれたる船橋上にて起て程戒  
に包まれたる船橋上にて起て程戒

穴を發見したが三十圓の

露戦後後のこととして未だ具體的に調査研究の結果を發表するの機會に達せざるも今日の如く交通の頻繁も幸ひて定時に入港し得たり前航も遂左したる濃霧に襲はれしことなく季節の事なれば多少の襲撃は受くるも出来ぬ情だ 松島縣南郡石井町露島出来合ひ

田に聞けり濃霧に就きて  
思ふとして判て居るこゝ

は親しく來所せられ、遺囑に關する調査事項を需められしも、前述の如く未だ眞實的の報告は勿論、研究材料すらも遺囑に關しては潮流及び氣候、直間、の著者口説の未知なるを以て川田重太郎(二六)海軍少佐(三三)佐賀縣(財界芳名)(二〇)板橋大三郎(二三)重忠を以てした。

なり釜山方面に於ける

**高麗丸船長** 五十嵐  
 の季節は尙ほ引続きて濃霧の下降を  
 見るべしと観測せり  
 板木縣安藝郡三好村大字戸室九十二  
 番戸生れ當時住所不定年壯士儀優  
 越  
 之を以て天龍川に投身したけれど切れず  
 溺れたが生き上り  
 國政施行衛不朗  
 岡山県山形市市立學校教員

京阪の七月

今の地位を決定し、お銀せしに對面  
 間の後舞の端れなるに、驚く可し一步  
 を進めば危険の地に迫る可き位置に  
 取行はれる、大松明を先頭に裝飾り  
 を取拂ふた裸神輿を四條橋上に擡ぎ  
 て來て鴨川の水で清め、社頭に歸つ  
 風祭の禰もあるもの事である  
 ○十七日は山鉦遊行、夜は神輿のお

園囃子が稽古される

**●又全南にて発見**  
「大蛇」似たる三角形の頭  
露南道順天邑を去る一里の開道、  
蘇南の小池(後橋)に至るの間に及ひ、  
天都樂安附近の河川中に於て此  
程從橋滿漢兵分遣所松下憲兵は  
にも稀れなる珍魚を発見したり  
の魚と云ふは普通の大きさ約三  
にして頭は三角形を成し全く大  
の頭と酷似し、背には大蛇の鱗  
同様なうろこの斑點ありて光澤  
り腹と背とに藍を存し謂は恰も  
の如く鮮人間に於ては之れを名  
て

**木椽靈魚** と呼ぶ由にて此  
魚は日頃池又は河中に棲息す  
るが陸上により更に其の鱗を以  
て市外街舞苗の浸水被害あるもの  
を知し(前山)

**●群山地方雷雨**  
山地地方の舊は去年月末の強雨を得て  
に補付られたるも粒粒に瀝しつゝ  
し雷は復た水田や畑か金  
識別し能はざりし故に植付不能なりし  
も相當潤ひを得て略ぼ植付を終ら  
する群山地方は二月午前より雨  
標にて終日蒸暑く降りては秋み歌  
にて是降り繼かに地上を潤すに過ぎ  
りしが夜に入るとも暫しく氣定む  
候たりしも翌三日早晩よりは盆を  
へすが如く雲雨續出し時に雷鳴さ  
ぬは午後一時頃に至る降りに歇み  
るも猶ほ降り續きに午前の降  
量最も多量なりしを以て市内低  
面家屋の下床浸水せるもの多き程  
て市外街舞苗の浸水被害あるもの  
を知し(前山)

**男のモス引** 原籍不詳當  
地人居住者共郷之  
は去月二十九日早朝太田春日町土  
裏奥商店にて番頭の阿泉顔して居る  
を胡魔化しモス九尺綯四圓を莫引  
て發見され直ちに大田警察署に突  
て是は餘り見うけやうになつた。

この月は太阪も又祭月にて二日の  
祭祭より始まり二十五日の天神祭  
に終る。櫓棚の陶器祭は例年陶器  
造り物に趣向を凝らし振上げ目なき  
販商人は廣告を兼ねて珍奇を賣よ  
の祭りとて雲泥の差である。(二十  
日は天神祭の有宮の賑ひ、町々の  
宮太鼓御神燈の数々、食ふて飲ん  
ど、二十五日は神輿のお渡り、  
船岡山北岸より船遊御となり松島の  
旅船に入る、數艘の祭り船に灼の  
て大川を下る壯觀は他で見られ  
ずの名物である。(大阪毎日記者)

羅南道順天邑を去る一

亡するこの事なり、依つて鮮人等は種々工風の未産卵しつゝある所を發見すれば先づ長き竹竿の尖に

の如く鮮人間に於ては

●**群山地 方雷雨**  
き出されたるが同人は以前この手  
て記し處りてを記したる前料者なり

りし稲苗は復活し水田

りしが夜に入りても等しく氣迷ひ  
候なりしも翌三日早曉よりは盆を  
約一千圓位にして外に現金四百圓  
代金約七百圓、家具掛書等を加へ

量は最も多量なりしを以

は去月二十九日早朝大田春日町土師は關本大田中學主任教諭、滋谷湖農工銀行大田支店長にして餘興

く弄ばれず蓄音器など

に終る、権柄の陶器祭は例年陶器  
造り物に趣向を凝らし抜け目なき  
く、友人は賞品と兼て多量に見  
る。日9日

宮太鼓御神燈の數々、



**目薬**  
井上博士

眼病を、不潔い布や指で擦るのはいけません。目薬を点眼すれば、目からロート目薬に消毒した布で、下図の様に拭く。新案の目薬器を点眼する。小瓶十連。本館 東京：大阪、山田安民藥房

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**金鈴香油**  
美製となる

**金鈴香水**  
金鈴香油

**計時中懷**  
試機シキ



計時中懷  
試機シキ

**釜山商店案内**

内外雜貨 卸 近  
鍋釜金物 卸 近  
サクラビール 卸 近  
油 商 店

目丁三町本山釜  
番八六七長崎電

**釜山商店案内**

内外雜貨 卸 近  
鍋釜金物 卸 近  
サクラビール 卸 近  
油 商 店

目丁三町本山釜  
番八六七長崎電

**釜山商店案内**

内外雜貨 卸 近  
鍋釜金物 卸 近  
サクラビール 卸 近  
油 商 店

目丁三町本山釜  
番八六七長崎電

**釜山商店案内**

内外雜貨 卸 近  
鍋釜金物 卸 近  
サクラビール 卸 近  
油 商 店

目丁三町本山釜  
番八六七長崎電

[illegible]



第百九十八席 田邊南龍口湖

密つてお出なされる。大津の宿より二井寺まではさして遠くはございませう。ん、今恰度大津の宿外れまで来ると何かあるかぞろへ、向うから人々来る故、長宅兵衛何があるから、お父人が来るやうだが、宅太様で、お家人を出てございします。長宅聞いて見ろ。宅宜しうございします。宅それへ書いて来て往來の者に御徳がそれへ。本町一丁目三越向電話一〇四七番  
**齒科診療所 野田 田 齒科醫院**  
 齒科診療所 野田 田 齒科醫院

ひ宅「ア一是々お前方は何所へ行く  
か大層な人出であるが」「ヘエ左様  
でござります、私共は此の裏宿の御  
開寺へ参りますので、宅「何かあるの  
か」「ヘエ、切支丹の證議の爲石印  
様の役人に喚はれて皆此の寺へ参  
るのでござります

七月八日  
五月二十日辛亥  
不命七赤四取赤口

御成座  
電二九一  
御成座  
演藝案内

七月六日開演の藤樹  
 一番 悲劇 親の罪 七場  
 二番 喜劇 戀の決闘 二場  
 三番 喜劇 志願の助馬  
 藤田正光 小泉の助 津川明三 井不二夫  
 健之助 白川一志 藤修三

六月三十日より本館開館一週年記念特別大興業  
特刊料金値上げせず  
奈良丸式活動劇直喜田奈良一口演  
名優嵐璃江二演

電話 二六三七  
六五三

山科大石妻子別れ  
五月二十一日から三月十日の香川、岡山、広島、

[illegible]

▲泰西活劇爆彈恩狸犬の恩金三卷  
 ▲新派大活悲劇櫻吹く國五郎大井一  
 大車轡有者羽袴普氏監役の下に兵庫六甲山  
 鐘破りの腰鼓を音聲とて響に撮影したる木邦  
 貨物發行の招待券及特出入券一切絶斷申上  
 前年正月迄六時より一映寫可仕是申上  
 料一等三十圓二等二十圓三等十圓  
 第一番〇人

京坡壽町  
電話三六〇  
巡業中の二代目桃中軒雲右衛門大一座近日来り込み開演仕候

明治  
電話三六〇  
浪花館  
▲浪界明星 浪山若園 原晴夢合同  
▲浪遊記 寛永左五郎 柳生旅日記(原稿) 東京の花菱 勘助記若園 ▲雲の隠本播州皿屋敷(暗幕) 越前守十娘二番目

賜各宮殿下御台覽之榮  
受勲の  
連日満員御禮  
伊賀越後日  
劇 伊賀越後日  
新派悲劇 青葉若葉  
八日限りなし 大正館

現駐小樽商會所長 代理店  
 本館 電話 上西九七番 下五五  
 早川漢器部 有樂館  
 電話 上西九七番 下五五  
 △七月六日 上西九七番 下五五  
 △七月七日 上西九七番 下五五  
 △七月八日 上西九七番 下五五  
 △七月九日 上西九七番 下五五  
 △七月十日 上西九七番 下五五  
 △七月十一日 上西九七番 下五五  
 △七月十二日 上西九七番 下五五  
 △七月十三日 上西九七番 下五五  
 △七月十四日 上西九七番 下五五  
 △七月十五日 上西九七番 下五五  
 △七月十六日 上西九七番 下五五  
 △七月十七日 上西九七番 下五五  
 △七月十八日 上西九七番 下五五  
 △七月十九日 上西九七番 下五五  
 △七月二十日 上西九七番 下五五  
 △七月二十一日 上西九七番 下五五  
 △七月二十二日 上西九七番 下五五  
 △七月二十三日 上西九七番 下五五  
 △七月二十四日 上西九七番 下五五  
 △七月二十五日 上西九七番 下五五  
 △七月二十六日 上西九七番 下五五  
 △七月二十七日 上西九七番 下五五  
 △七月二十八日 上西九七番 下五五  
 △七月二十九日 上西九七番 下五五  
 △七月三十日 上西九七番 下五五

[illegible][illegible]

▲山縣五十雄 村上龍吉共著 四十五五

祭星は日七月七

月と輝く

良藥 婦人  
中  
將  
湯  
は

婦人病を追ふて

何處  
おもてなす

今や世界に販路を擴め

北はウラルの山越へて

南は印度の海を渡り

☆中將湯は世界到處の藥店にあり市内配達無料とす☆

主・治・効・能	★子宮、痛	★婦人神氣	★逆上頭痛	★夜睡不安	★腰加寬兒	★下腹腫み	★產前腹痛	★產後血腫	★月經不調
	★血の滞	★氣よき	★頭痛よ	★内服	★こしは	★腰は冷	★つばは	★月經痛	★血よ

無代道皇  
 天本醫學士著  
 『婦人衛生手引』  
 婦人病一冊の要  
 訣を詳説する。其本  
 二冊初手封入。藥中込  
 大箱販方に申し渡す

定價	
二日分	廿五圓
四日分	卅五圓
一日分	六十圓
二日分	一圓十圓
三日分	一圓六十圓
四日分	二圓五十圓
五日分	四圓五十圓
六日分	七圓五十圓
七日分	二圓五十圓
八日分	七圓五十圓

大箱販方に申し渡す  
 此の如きあれ

東京市日本橋區通四丁  
 津村順天堂本店  
 電話二六三  
 電話二六三  
 大阪市堺筋大寶寺  
 津村順天堂支店  
 電話四二五  
 電話四二五







第九特別帝國議會

貴族院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

衆議院

鮮鐵法案可決

動亂の支那

張勳援軍向方

南方臨時政府協議

東拓案委員會

中野實次郎氏

秋山政府委員

復辟取消と張勳の反對

六月朝鮮貿易

鮮鐵收入好調

張督軍反對に決定

我兵秩序維持に努む

復辟を歓迎す

懸賞答案募集

活動之世界

土地家屋賣却廣告

浮石嶺門

朝鮮製藥合資會社

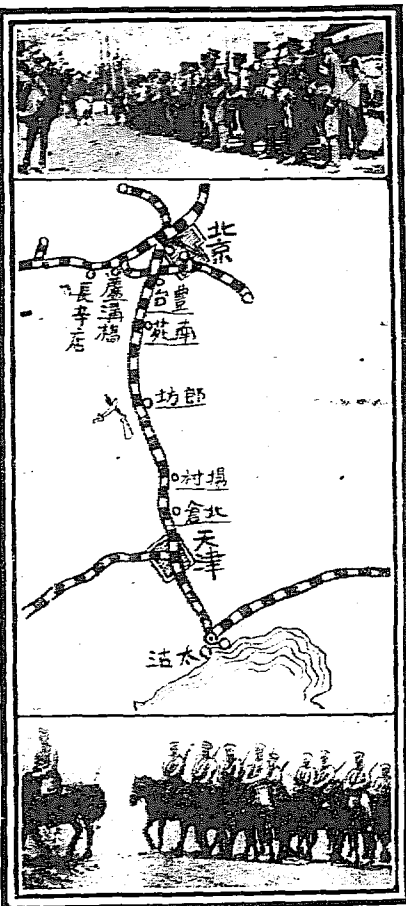
張勳兵鐵

破壤報別



●京漢線方面の鐵道線路を破壊する  
●京漢線方面の鐵道線路を破壊する  
●京漢線方面の鐵道線路を破壊する

●北京在留外人憂慮  
●北京在留外人憂慮  
●北京在留外人憂慮



### ●注目すべき段張の勝敗

●我國の軍隊を動かさねばならぬ  
●我國の軍隊を動かさねばならぬ

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●段張の勝敗  
●段張の勝敗  
●段張の勝敗

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

●山口線營業開始  
●山口線營業開始  
●山口線營業開始

藤村貴真膏  
品質優良にして効力  
家庭に常備する  
必要あり

最新刊  
朝鮮總督府  
各種資料

金鳥香  
責任付  
かきせん

松菊屋小間物店  
中元贈答品賣出し  
七月七日より御買上福袋進呈

金鳥香  
責任付  
かきせん



公田  
竹の  
島人  
作

A black and white illustration of a man in a dark, patterned robe and striped pants, sitting on the floor and leaning against a large window with a grid pattern. He is looking out the window.

△二宮閣下將大入會生記  
△正印中學諸君錄名學期の一、(一)合製月五十五元、(二)時局新聞紙六張、(三)日本國民の學會  
△名古屋海業協會議所月報、五月號、(一名古市海産物誌)  
△婦人週報、第三(七二)、(一四)對小原康子起手之谷田節一の二三  
△恭賀六月號、(十八)對小原康子今稿五一、(一四)對西七月號  
○住宅七月號、(五)對小原康子今稿一、(一)住宅七月號

◆赤子業者の福音、名古屋市中南區小橋町東角地、新開設、古市屋主・岡本屋主の營業者、其の目的を以て、同業者、諸月報、第五十回開闢、行政上之利便を、付與す。此に、付希望業者は、同利也。由らむべしと。

臺 涼  
◇善光寺の仁王様  
麗に落成した長野善光寺新  
仁王門に掲げける云ふ云ふ  
一丈餘りの仁王の像四個を  
高杉光雲氏監督の下に米原眞酒氏が  
約五萬圓近くの製作費で引受け今春  
來製作中であつたが、伊波限の六月  
末日が來ても一向製作が進まないど  
うした譯かと聞いて見ると米原氏が  
剛達吉祥寺側に假成した製作小屋の  
飾り者の誰一人も洞察し番人情権概の  
餘り早速小屋を出て直筋ひきの貸家  
に引きこもつて居るからといふので

つてゐた。

最早、謙吉が日本橋南株式會社に在  
職中、赤坂の藝者春子の色香に迷ひ  
て、身を誤ると、此大森の下宿に暫  
く身隠してゐたことがあつた。大森  
は落着いて利かぬ氣の男ではあつたけ  
れども、遂にいふ素能く剛を制すで  
早見の温厚篤實には一日置いて、兄  
と見て居たことは、そして早見が  
赤坂に耽溺して身を誤まつたのは、  
其本心でなくつて、一時の出來心で  
あるからと、深く責むるやうなこと  
はなく、相變らず親交の間柄であつ  
た。

晴を食れば影といふことがある。  
今荒野屋の主人が晴を爲せる時、道  
路から大聲で「早見あるか」と呼んだのが、世々  
害敵であつた。

的施設　丁東の果實青島軍事政治顧問外人の  
見たる支那の家族内國家主義の發展、國民性  
の對支關係の支化、朝鮮半島の民族問題、滿洲國  
問題、大連灣問題等々種々な特色なき強硬の二名  
也。

婦人世界　先づ其の準備として名  
流夫人達、夏休中に千佳美を發遣し、白い  
月の産後訪問する。各國の夫人は生活文化、物  
物の進歩に於ける、各人の長所を以ての光榮なり  
の選り方。七月中の注意料理及なる面い、物  
ものに新張するもの自開演、則村博の歌  
莫の物新張下、田代子先生の井枝、或等の歌  
花、花に賣る有活劇、村井枝、或等の歌  
小説、松島、歴史小説花に賣る里何れも養育した  
る及び日本（十七號東京）橋南屋白四一二  
實業の日報

大阪より一通信　七月一日號（六  
號）北區橋南屋の三報（一週通報）

鉄鋼界七月號（十號鐵鋼本町の二二  
號）

尙米當舖時報七月號（非貴品大市米店片  
梅南商業家）

小學生七月號（十二號東京市外法名町史更  
少文教社）

少年民権十月號（十一號東京市橋南屋一  
七番地）

横濱中學講義錄（一學年の六ヶ月費月  
十七號東京市區三馬路三十一日大木橋中  
學會）

家庭のローマ字七月號（五號東京朝  
陽有樂町三十一号文字會）

聖友十月號（七號東京市橋南屋一五

なくつちやならないことがある。と  
冒頭して、  
「外でもありませんが、毎も貴方の  
處に這つて来る、上野公園の西郷隆  
盛の銅像見たやうな御友達ですな  
れ。彼の人には眞箇に困つて了ひま  
すよ。此間のごことでしたね、ドシ  
ン／＼と二階で酔い昏が爲るから、  
什麼したんだらうと思ふ、何ん  
でも此處で劍舞を演つてやうな様子  
でしたが、彼の圖體、此相違な二  
階で劍舞を演られちや據りませんや  
店に座敷が落ちて、甚麼に困つたか  
知れませんでしたよ。それから四五  
日前の晩、彼の人が來てる時に、底  
から水の落ちる音がしましたから、  
ハチ桶でも降り出したかと思つて、  
外へ出て見たら、彼の人が此念から  
小瓶を爲てる様子でしたが、これ  
からあんな亂暴を爲ないやうに、驚く  
つて來られたのが、此大森のごと  
であつた。  
大森は、早見を同時代に法科大學  
にゐたことがあつたが、性落着く  
事に拘泥せぬ豪傑風の男であつた。  
未だ大學にゐた頃、本郷の牛肉店  
國の二階で、柔翁を同學生を愚つた  
ところが、口腹へをされたのが、皆  
厭して其學生を殴打したことがあ  
つた。ところが其學生は、或る華族  
の癡男であつたから、問題と爲つて、  
退校所分に爲らうと爲た。早くもこ  
れを知つた大森は、大變ばかりが理  
解する所ではな。獨張でも究める  
ことが出来る。退校所分を受けか  
け前に、自ら進んで退學してしまひ、  
爾來これといふ職業もなく、放浪生  
活をして今日に至つたのである。こ  
れも正義といふことが頭腦を放れる  
くつて、常に正々堂々と世の中を渡

[illegible]

便に如何  
秘にな


五  
本講

健通丸に  
原藥の精良配劑の  
界の名譽を占有す

健通丸の實驗

程きつい便秘でも腹を痛く  
らぬのが此藥の特徴です  
この方も下劑を要する度合

就て學者曰く  
 妙共（みことども）に人爲（ひとこころ）を盡（つく）し眞（まこと）に斯（ごと）  
 るものなりこ  
 松者（しょう）曰く  
 のず快（こころよ）く通（とほ）じて決（けつ）してクセ  
 隨（したが）つて腸胃（ちやうい）を整（ととの）へ習慣（しやうへん）的（てき）  
 が自然（じぜん）に減（へ）じます云々



腹中雷鳴 肩の凝 肚腹膨滿 口のあれ 溜の悪 痔 頭 耳 水  
 定價 十八日分 金五十錢 十日分 金三十錢 六日分 金二十錢 二日半分 金十錢  
 全國各藥店に販賣す

合符 會社 參天堂藥房 發行

又ク贈與に効あり  
價十錢 廿五錢 五十錢 各別有可  
本舖東京路町 丹平商會藥房

▲書籍御案内▼

民友社 訂名 校訂	貞觀政要	郵稅一〇
一玉	撞球指南	郵稅一五
同	江和尚錄	郵稅一五
同	世界變局	郵稅二五
德藏 米岡	牛	郵稅一八
同	商工界	郵稅一五
同	修學行商日記	郵稅一五
同	維育市地所	郵稅六

京日城報社代理部(德藏京城三〇〇)


Yuan

御園

何故

御園白粉は一番良いでせ  
 び分なくノリよくノビと  
 肌の生彩を美しくします

金二十錠 金三十五錠



御園白粉の箱と顔のイラスト。箱には「御園白粉」と書かれ、顔は化粧した様子。

▲大便秘結  
▲消化不良  
▲逆上

健通丸  
主治効用

海狗腎白粉丸  
料元  
店商屋見丸

金七十五錢

（79）

朝夕の冷氣に

ねび

を

御用心あれ

コドモねびは  
小兒解オインに限る

大人ねびは父は  
かぜねつには



京城黃金町電話二四四三番  
 三丁目振替京城三三八番  
 內科眼科  
 小兒科  
 本院  
 院長 木田建義  
 痔核。痔。瘻。脫肛。痔  
 裂痔。痔出血。直腸脫  
 本田醫院附屬  
 京城肛門痔院  
 此門病の諸痔疾持種注射根治療法  
 誠書入用の方は郵券十二錢を要す

ホツ／＼と  
あくはき  
**悪疫の流行**  
けうびう  
ある時分誰方も仁丹召上り  
ときぶん だれ とも にん だん しょう じょう  
ごようじん かんよう  
御用心む肝要!!

金言  
▲智謀に  
益々進め  
ば益々謀  
進に傾く  
フィロソ  
フ

料 謝  
讀本粉白圖御  
蝶 胡 東 伊